

用語

日本語：マウシング行動 英語：Mousing behavior

【定義】手足や物などを口に入れる乳幼児に特異的な行動。

【説明】近年、子どものアレルギー疾患の増加や発達期における化学物質の影響が懸念される中、身近な生活用品や環境媒体を介した化学物質曝露の可能性が指摘されている。特に、手や足、物を口に入れる乳幼児のマウシング行動は、発達期における心身の成長を促す上で重要とされる一方で、化学物質を口から摂取する特異的な機会となるため、乳幼児の健康リスクを評価する上でも軽視できないものである。2021年に実施された乳幼児を対象とした行動調査によると（戸次ら、令和3年度厚生労働科学研究費補助金報告書）、口に入れる頻度が高い物として、おもちゃ、手足、布、紙などが挙げられており、13カ月までの乳幼児で特に高い頻度観察されるなど、月齢によって習性が異なることも確認されている。また、乳幼児が使用する頻度の高いおもちゃには、柔軟性のあるプラスチック製の製品も多く含まれており、これらの製品には、フタル酸エステルを初めとする多種類の可塑剤が使用されているため、健康リスクへの懸念から、食品衛生法の管理のもとで成分や含有量に規制値が設けられているものもある。そのため、乳幼児に対する化学物質のリスクを評価するためには、呼吸や飲食、皮膚接触を介した曝露の他、マウシング行動を介した曝露量を正確に把握する必要がある。これまで室内行動調査の中で、アンケートやフィールドワークにおけるビデオ撮影による調査が行われてきている。

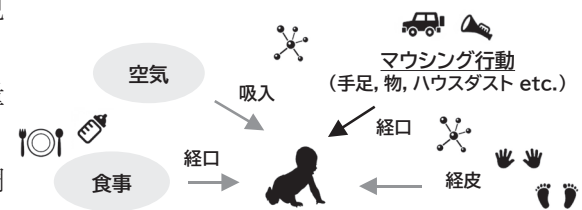


図 化学物質の摂取経路

【解説者】戸次加奈江 所属：国立保健医療科学院 生活環境研究部